

# 政策提言により、桐生の元気を創造します！

**雇用の創出**  
新たな工業団地整備  
武井西工業団地が分譲完了！ 黒保根町  
次期工業団地の早期整備により雇用創出と定住促進を図ります。

**交流人口の増加**  
道路環境・道の駅の整備  
藪塚ICアクセス道路と50号バイパスの早期完成を目指します。  
道の駅のロゴ 国土交通省HPより 群馬県HPより  
新里町内への道の駅設置を目指します。

**起業するなら桐生へ**  
創業支援とイノベーションの誘発  
支援拠点の整備が進む 東武ビル(本町5丁目)  
開業・起業・就農の希望者をターゲットとした移住定住ワンストップ窓口が開設されます！  
**未来への投資**

**学生に優しいまちづくり**  
高校生学習室や公営塾の整備により(※民間委託) 全国No.1(※)の学園都市に！  
【ポイント】  
・市内に住む高校生年代の人口 →2,585人(令和4年3月末)  
・市内高校に在学する生徒数 →5,541人(令和4年5月1日)  
・高校生の昼間人口は約2倍！

2025年4月に「第3N高校」(仮称)の開校が予定される旧桐生女子高校

**学園都市としての発展**

桐生市にお住いの皆様へ

# Kiryuism

発行日 令和5年3月29日  
発行者 久保田 裕一

桐生市議会議員 久保田ゆういち 市政レポート Vol.8

# 久保田 ゆういち

## 次の世代に誇れるまちづくり 具体策を提案します！



## 久保田裕一の活動紹介



一般質問は8年間欠かさず  
登壇:31回、質問数:83件  
全239項目について質問

**徹底現場主義!**  
一般質問ではパネルを用いてわかりやすく

久保田 裕一 議員

- その他の活動**
- ・桐生商工会議所青年部 ビジネス向上委員会 委員長
  - ・本町六丁目商店街 専務理事、桐生商店連盟 理事
  - ・桐生青年会議所、桐生市消防団新里方面団第4分団
  - ・新里猫友会 理事、新里文化財保護協会 理事、など

久保田 裕一 (くぼた ゆういち)



群馬県桐生市新里町在住。前橋工大卒。中学生のときにまちづくりに関わる仕事に興味を持ち、高校で土木、大学では都市交通政策を学ぶ。大学卒業後、群馬県内の若手有志と共に市民団体「ACEぐんま」を結成し、2011年に桐生市の活性化を目指した活動をスタートさせる。2014年4月、インターネットに向けてテレビ放送を行う市民放送局「まちなかテレビ」を設立。代表を務める。2015年4月、桐生市議会議員選挙に出馬し、当選。現在二期目、教育民生委員長、会派「そうそう未来」の会長を勤めている。

### 一番身近な市議会議員を目指します。

桐生市議会議員  
教育民生委員会 委員長  
生年月日: 1985年3月1日(38歳)

久保田ゆういち 公式HP <https://kubotayuichi.com/> [facebook](#) [twitter](#) [instagram](#)

連絡先 TEL 090-9320-7583(携帯・直通) Mail: mail@kubotayuichi.com

事務所 桐生市新里町新川1790-1 (自宅 桐生市新里町山上85-6)

**特集** 桐生市は過疎ではなく過密の街?!  
逆転の発想で快適な住環境をつくる秘策とは?

**市政報告** 実現しました!推進します!  
全国の仲間と共に!

▶こちらから開いてご覧ください。



# 久保田ゆういち、推進します！



**POINT 1**  
地域自治区の  
実現

合併で失われた地域の独自性を取り戻すため、新里地区・黒保根地区を先行モデルとした地域自治区の実現を目指します。

**POINT 2**  
通学路を  
最優先とした  
生活道路  
整備

子ども達の安全を最優先に通学路の安全対策を強力に推進します。また、市内でも整備が遅れている新里町内の生活道路環境の改善を図ります。

**POINT 3**  
全ての人に  
優しい街

バリアフリー化、公共交通の充実、買い物難民対策などにより社会障壁をなくす施策を推進します。

**POINT 4**  
投資効果を  
徹底検証

公共投資の費用対効果の検証、民間活力の積極導入、不要公共施設の積極的売却を推進します。

# 久保田ゆういちが、実現しました！



## 带状疱疹 助成制度の導入

日本人は働き盛りの50代から带状疱疹の発症率が高まり80歳までには約3人に1人が発症するといわれています。带状疱疹から带状疱疹後神経痛(PHN)に移行した場合、生活に支障をきたす痛みと付き合っていかなければなりません。**令和3年10月に会派要望として带状疱疹予防接種に対する費用助成を行うことを要望し、令和5年度予算に反映されました。**



## 公園遊具への 桐生市独自の対象年齢表示

適切に管理された遊具であっても使い方を間違えば大きな事故に繋がります。例えば年齢による遊具の選択です。小学生にとっては適度な高さの遊具でも、幼児が利用した場合には危険な高さになってしまう場合もあります。日本公園施設業協会では、遊具に合った年齢を示す年齢表示シールを設け、年齢にあった遊具を選択してもらうことで大きな事故の回避に繋がっています。しかし、旧型の遊具には基準がなく対象年齢が曖昧なままとなっていました。そこで、**令和3年3月議会において市独自の対象年齢表示を提案し、市内の公園全ての遊具に表示が行われました。**



桐生市独自の対象年齢表示

## 新たな工業団地の造成へ

令和4年に桐生武井西工業団地の最後の1区画が完売しました。桐生武井西工業団地には2018年の分譲開始以来、全体面積約14.44ヘクタール、分譲面積約11.56ヘクタールの敷地に8社が進出。2005年の桐生市・旧新里村・旧黒保根村による1市2村の合併以降では、板橋上赤坂工業団地(2010年分譲開始)に続く工業団地造成となり、それぞれ完売に至りました。桐生市内における産業用地の在庫が完売したことを受け、**桐生市では群馬県と新工業団地造成に向けた調整を進めていくことを明らかにしています。私は令和3年6月議会の一般質問において、新たな産業用地の一日も早い確保について提案をさせていただきました。**



桐生武井西工業団地の区画図

# 全国の仲間と共に！



## 子どもの事故予防 地方議員連盟の副幹事に就任

「子どもの事故予防地方議員連盟」は地方議員同士で子どもの事故事例を共有し、全国のネットワークを活かしながら課題解決に向けた調査・提言を行っている議連です。80名を超える議連のネットワークを活かしながら、悲しい事故を繰り返さないための実効性のある「予防策」についての調査・研究・提言を行って参ります。



佐藤会長、自見はなご参議院議員と共に要望活動へ(参議院議員会館)

## 関東若手議員の会の 副会長に就任

「関東若手会議員の会」は日本最大の超党派の若手地方議員のネットワークである「全国若手議員の会」の関東ブロックに位置付けられる組織です。35歳までに当選した市区町村議会議員(出身者を含む)が45歳まで在籍できます。研修会や調査活動などを通じて全国で約500名、関東で約200名の仲間が日々研鑽を積んでいます。



関東公式研修in群馬にて(水沼駅)

## 群馬県商店街振興組合連合会の 青年部長に就任(全国青年部に参加)

「全国商店街振興組合連合会」は各都道府県の商店街組織が加盟する全国組織です。私は群馬県の青年部長として全国の青年部に参加しています。繁盛する商店街には、個店が所属する商店街の活性化が不可欠であり、そのためには次代を担う若手の力が十分に発揮される場が必要となります。私は小売業の人間ではありませんが、商店街のコミュニティ空間としての価値を高める視点で、最新の情報を群馬に持ち帰れるよう、役目を果たしていきたいと思っております。



指導者研修会in青森市にて商店街の取組みを学ぶ

# 特集 桐生市は過疎ではなく過密の街?! 逆転の発想で快適な住環境をつくる秘策とは?

2005年6月に桐生市と旧新里村、旧黒保根村が合併して18年が経過しようとしています。合併前の桐生市域の人口は2000年の国勢調査時点で合計13万4,298人でしたが、2020年には合計10万6,445人となり、20年間で3万人近く人口が減ってしまいました。そのような中、黒保根地域に続き、旧桐生市域が新過疎法のもとで「過疎地域」の指定を受けるに至っています。

「過疎」という言葉の意味を引くと「極度にまばらなこと。特に、ある地域の人口が他に流出して少なすぎることを。」と出てきます。旧桐生市域が過疎地域に指定されたことは多くの市民の皆様にとって衝撃であったに違いありません。しかし、私には一つの疑問があります。本当に桐生の街は「極度にまばら」で「人口が少なすぎる」のでしょうか。確かに毎年2,000人近く人口が減少しており、高齢化比率も36.7% (令和4年度) と全国平均を大きく上回っていますが、桐生の街には大型の商業施設や病院、高校や大学もあり、交通面では鉄道4路線に15駅が設置されています。私は現状の桐生に対して「過疎」という言葉が持つイメージとは少し違う印象を受けているのです。

ここで桐生市が「極度にまばら」で「人口が少なすぎる」のかを考察する上で参考になる**人口集中地区(DID)**という考え方をご紹介させていただきます。これは統計データに基づいて都市的地域を定めたもの(原則として人口密度が1km当たり4千人以上となる地区が互いに隣接し、それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5千人以上となる地域)であり、シンプルに表現すると「**人口集中地区=多くの方が密集している都市的な地域**」と言えるかも知れません。桐生市に当てはまると人口集中地区の面積は22.52km<sup>2</sup>(全面積の8.2%)で、この中に67,731人が居住しています。その割合は桐生市の全人口(106,445人)の63.6%に及び**桐生市は多くの方が都市的な地域に住んでいるコンパクトシティ**(※)とも言えるのです。ちなみに、県内他市の総人口に占める人口集中地区に住む人の割合は前橋市59.5%、高崎市54.1%、伊勢崎市50.4%、太田市39.8%、みどり市19.0%となっており、桐生市は群馬県内で最も都市的地域に住む人の割合が高い地域となっています。(※コンパクトシティ: 都市機能が集約されている街のことで、全国の地方都市が目指している理想の都市像とされています)

とはいえ、桐生市全体の人口減少に伴い、人口集中地区内の人口密度も低下傾向が続いています。少子高齢化に加え、時代の変化と共に子育て世代には庭付き一戸建てが好まれるようになり、車は1人1台が当たり前となるなど、需要に対して土地が手狭になったことも桐生市の人口減少の一つの要因です。時代に合ったライフスタイルを実現するためには、過密な桐生の市街地では土地が足りず、手ごろな価格で広い土地を求めて市外に転居してしまう例が続いてきた結果が、現在の桐生市の姿ではないかと考えています。一方で、桐生市内の土地の価格は下落が続き、空き地や空き家が増えたことで活用可能な空間が増加してきました。これらを資源と捉えるとき、都市機能の整った便利な地域に、これまでよりも広い面積でゆとりのある宅地の設定が可能になったと考えることができます。これから桐生市が適度な密度の街並みを形成していくことで「**快適に豊かな住環境を得ながらも街中の便利な生活も手に入れる**」といった価値を提供できるのではないのでしょうか。今ある価値を強みと捉えチャンスに変えていくため、新たな発想での桐生独自のまちづくりが求められています。



吾妻山より桐生市街地を望む

# 少子高齢化に対応した 健全なまちづくりを 桐生から



あなたの声をお聞かせください  
TEL. 090-9320-7583 (携帯・直通)  
Mail: mail@kubotayuichi.com

